

海外紹介

2001年世界鍼灸学会連合会 シンガポールシンポジウム報告

小野 直哉 古賀 義久 津谷喜一郎
全日本鍼灸学会国際部

Report on the Attendance of WFAS 2001 Singapore International Symposium on Acupuncture

ONO Naoya KOGA Yoshihisa TSUTANI Kiichiro
Department of International Affair
The Japan Society of Acupuncture and Moxibustion (JSAM)

はじめに

2001年世界鍼灸学会連合会(WFAS)シンポジウムは、WFASが主催し、世界保健機関(WHO)とシンガポール衛生部との共催により、シンガポール中医師公会と中華鍼灸研究院が大会開催を担当し、2001年12月8、9日(土、日)の2日間、シンガポールのサンテック・シンガポール国際会議展示センターにて、世界各国から約500名の参加者を得て開催された。このシンポジウムに全日本鍼灸学会国際部の小野と古賀の両名が参加した。シンポジウムと期間中に開催された執行委員会について考察を含め報告する。なお前者の詳細については別途、医道の日本誌2002年5月号に報告する予定である。

・シンポジウム

1. シンポジウム初日、2001年12月8日(土)

午前9時よりシンガポールのサンテック・シンガポール国際会議展示センター大会場にて、シンガポール総理府兼地域社会発展及体育省担当大臣・曾士生(Chan Soo Sen)を来賓に迎え、開会式が行われた。

午前中は同会場にて2つの基調講演、シンガポール厚生省伝統・相補医学課課長補佐・謝憲安(Cheah Hean Aun Chris)による“The Registration

of Acupuncturists in Singapore”とWHO西太平洋地域事務局健康研究調査室伝統医学リージョナルアドバイザー・陳懇(Chen Ken)による“Acupuncture: Towards an Evidence-Based Approach”、そして中国国家医薬管理局副局長・李振吉(Li Zhengji)によるシンポジウム主題講演“International Acupuncture Research, Education and Clinical Therapy in New Century”が行われた。

午後からは招待講演と一般口頭演題の発表が2つのミーティングルームで、セッション形式で行われた。初日は招待講演計6、一般口頭演題計22、合計28演題が行われた。

2. シンポジウム2日目、2001年12月9日(日)

午前9時より、前日同様のセッション形式で一般口頭演題の発表が2つのミーティングルームで行われた。最終日は招待講演計4、一般口頭演題計21、合計25演題が行われた。

午後1時より昨日開会式を行った大会場にて、2つの招待講演、中国の復旦大学・曹小定(Cao Xiaoding)による“Scientific Bases of Acupuncture Treatment”と全日本鍼灸学会会長・丹沢章八と同研究部長・向野義人による“Current Educational System and the National Board Examination for Acupuncture in Japan”(国際部古賀が代読)そ

して2つの基調講演、WFAS名誉会長王雪苔 (Wang Xuetai) による“Colorful Ancient and Modern Therapies of Acupuncture and Moxibustion”とイタリア“ラ・サピエンザ”大学・Aldo Liguori による“The Same Acupuncture Stimulation Induces Opposite Effects According to the Condition of Patient”が行われた。

その後、同会場にて引き続き閉会式が行われ、2002年度の次期国際鍼灸シンポジウムがイタリアのローマで開催されることを会場とイタリア代表により確認され、午後5時に本シンポジウムでの全ての日程が終了した。

3. ポスターセッション

両日の講演・口頭演題とは別に、狭いスペースながら、ポスターセッション会場では27の演題が張り出され、両日午前午後のティーブレイク時にそれぞれのポスターの前で質疑応答が行われた。

4. 国際部としての業務

今回、全日本鍼灸学会国際部から参加した、小野、古賀、両名の業務はつぎの3つであった。全日本鍼灸学会会長・丹沢章八また同研究部長・向野義人が本シンポジウム不参加のため、招待講演を古賀が代読、小野による第5回WFAS執行委員会への日本側執行委員代理参加、会場内のブースを用いての全日本鍼灸学会紹介英文リーフレットの配布と説明などによる広報活動。

これらの業務は、古賀の代読中にスライドが動かなくなるハプニングはあったものの、特に支障なく、全て遂行され、無事完了した。

5. 小結

今回の抄録総演題数は基調講演4題、招待講演12題、一般演題の口頭発表36題、ポスター発表27題、計79題であった。本シンポジウムでは2001年9月11日に起こった米国でのテロの影響を受け、各国からの参加キャンセルが相次いだ。日本・欧米などの先進諸国からの参加者が極端に少なかった。

. WFAS2001

第5期執行委員会第2回会合参加報告

現在、日本からのWFAS執行委員会(理事会)メンバーとして、副会長の黒須幸男、執行委員の津谷喜一郎がいる。しかし今回は両名の不参加により、津谷喜一郎の委任状を携え全日本鍼灸学会国際部の小野が代理出席した。

執行委員会は2001年12月8日(土)午後7時30分～午後10時30分に、サンテック・シンガポール国際会議展示センター2階、203号室で開催された。

参加者33人(アジア系25人、白人系8人)、参加国は15ヶ国(シンガポール、日本、中国、韓国、メキシコ、ドイツ、イタリア、オーストラリア、ノルウェー、インドネシア、フランス、ブラジル、カナダ、スペイン)であった。

執行委員会に入る前にWFAS副会長であったアルゼンチンの故Wang Yu氏を追悼し執行委員会参加者全員で黙祷を捧げた。

WFAS2001シンガポールシンポジウム学術委員長でWFAS執行委員・陳水興(Tan Chwee Heng)が議長を務め、議長から執行委員各位に本シンポジウム参加への謝辞と本シンポジウムについて以下の報告があった。

20ヶ国(シンガポール、マレーシア、インドネシア、中国、台湾、日本、韓国、ドイツ、イタリア、オーストラリア、ノルウェー、フランス、ブラジル、ヴェトナム、カナダ、インド、メキシコ、ポルトガル、スペイン、米国)から約500人が参加。

当初一般演題では口頭発表応募70の中から43題、ポスター発表では応募88の中から22題を採択。実際、抄録上では一般演題発表、口頭発表36題、ポスター発表27題、計75題。

議事は以下の通り進められた。

第5期WFAS執行委員会第2回会合の協議事項

1. 世界健康会議やWHOの地域委員会議に参加したWFAS執行委員からの簡単な報告。
2. さらなるWHOとの協力について
 - a) 調査研究計画に関する協力：
 - 鍼による疾病治療効果の標準化に関する調

査研究。

鍼の標準化に関する調査研究（経穴表記の標準化、鍼の教育と試験の標準化、鍼道具の標準化）。

- b) 2002年世界健康会議での「世界伝統医学の日」の提案とWHO西太平洋地域計画（WHO Western Pacific Regional Proposal）への協力計画をWHOへ提出。
- 3．更なるWFAS新メンバー団体の承認強化について
- a) WFASのメンバー団体がいない国々の、伝統中国医学と鍼の団体を承認する。
- b) WFASと多国の政府は連絡及び協力を強化し、WFASは政府系の鍼の団体を承認する。
- c) WFASへの加盟は1つの国や地域から3団体を限度としているが、これを撤廃しなければならない。
- 4．WFAS15周年記念祝賀記念アルバム製作について。

本会合は各協議項目に対する具体的な行動計画が検討ではなく、各協議項目の確認と承認であった。

各協議項目で出た話題を以下に記す。

WHOでの伝統医学は伝統中国医学ではないことの確認（協議項目1）。

WFASメンバーによる鍼灸の調査研究に関するデータベースの作成（協議項目2 - a）。

日本と中国での経穴位置の相違による問題（協議項目2 - a）。

中国では鍼灸の研究費に400万ドルが必要（協

議項目2 - a）。

鍼灸に対する中国政府の対応（協議項目3 - a）。

WHOはWFASとの協力を望んでいること（協議項目3 - b）。

WFASに正規メンバーと成るための加入条件検討の必要性（協議項目3 - a, b, c）。

協議項目とは別に、メキシコからの理事会参加者からメキシコの鍼灸事情について以下の報告があった。

鍼灸教育は修士課程の大学院での専門教育である。

米国に近い北メキシコの海岸沿いに鍼灸の研究所を創設した。

メキシコ鍼灸学会の宣伝を情報技術（IT）やオーディオビジュアル（AV）を用いて行うことを検討している。

現在は学会紹介のビデオを製作している。

最後に、イタリアからの執行委員会参加者から次回2002年のイタリアシンポジウムプログラムについて以下の報告があった。

2つのシンポジウムを予定。

シンポジウム1：慢性疾患に対する鍼灸治療の発展についての議論。

シンポジウム2：鍼灸を調査研究するための方法論の議論。

シンポジウムのいずれも専門家による議論としたい。

以上